

人スト統一12月、とりぎりで実力を闘場

日刊 動労千葉

82, 12, 1
No. 1208

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二九三五〇六(公衆電話)七二七〇七

支部代誓

現場改悪に実力反撃を!

動労千葉は、十一月二十九日、第3回支部代表者会議を開催し、「57・11ダイ改」闘争を総括するとともに、「当面する闘争の取り組み」について次の通り確認した。

「57・11ダイ改」闘争の総括

国鉄当局は、「57・11ダイ改」をめぐる交渉の中で、臨調答申の「労使間協定の全面的見直し」をうけて、従来結んでいた中央協定の締結を拒否するという反動的な対応にでてきた。

国労、全動労、動労千葉は、この中央協定問題を決定的に重大な攻撃としてとらえ、安易な妥協を拒否し、交渉は決裂した。とりわけ、国鉄当局(太田労政)が「鉄労をだきこみ、動労を先兵にして、国労をたたく」という露骨な反動的な新労務政策をこり押しするという対応に対し、当然にも国労をはじめ闘う国鉄労働者の怒りは爆発した。

国労は、11月13日、14日順法闘争・15日ストライキの戦術を決定し、13日にはついに6年ぶりの順法闘争に突入、トップ交渉で集約する14日午前7時まで果敢に闘いぬいた。

一方、動労「本部」は、3月の中央委員会での「働こう運動」なる産報化路線をこり押し決定して以降、自民党三塚委員会との密着し反動太田労政の先兵になることを通して臨調答申の「緊急11項目」を全面的にうけ入れ、何一つ闘わずして屈服し、「ブルトレ旅費返済」「乗車証の見直し」「現協制度改悪」の受け入れなど、公然と臨調・国鉄当局の尖兵となつてたちあらわれている。しかも、特に注目しておかなければならない事は、動労「本部」革マル反動分子は臨調答申以降、「働こう運動」路線を更に反動的にエスカレートさせて、「闘うから権利を奪われる」「闘ってほならない」「闘えというやつは挑発者だ」と言い放つて、当争圧殺者の論理をかかげ、闘う部分を実力で叩きつぶせとする極めて凶暴で反動的な路線をかかげ始めていることである。(10月1日に「本部」青年部革マル分子が発行した「職場学習・討議資料」でうち出されている路線がそれである。徹底的に弾劾し粉砕せねばならない。)

動労「本部」革マルは、ついに「57・11」で完全に敵の陣営に組し、国鉄労働者の闘いに襲いかかり、闘争破壊者として登場した。彼らは一万六千名の大合理化に率先協力したばかりか、「国鉄のおかれた状況を認識し……」なる労使協調「産報化協定を、11月4日早々と、鉄労とともに「片仕切り」して、当局と一体となつて国労や動労千葉の闘いの圧殺をはかろうとしたのである。

動労千葉は、10月26日以降、36協定破壊・長期非協力闘争に突入するとともに、11月4日当局提案の一方的「協定」

を拒否し、国労と共に更に闘いを積み上げてきた。そして、現場の実力闘争を背景にギリギリまで闘いで当局を追いつめ、ついに先の「産報化協定」を撤回させ、14日の「労働条件に関する協定」の再提案を引き出し、合理化に一定の歯止めをかけたことを確認し、11月14日15時をもって闘いを集約した。

「57・11ダイ改」闘争は、支配階級の全体重をかけた国鉄労働運動解体攻撃に対して、国労・動労千葉をはじめとする巨万の闘う国鉄労働者の壮大な反撃が開始されたことをはっきりと示したと同時に、労働者の敵としての動労「本部」革マルの反労働者の本質が全労働者の前に全面的に暴露された。革マル反動分子の粉砕——掃は、今や全労働者の必須の任務となつたのである。

81・3ジェットストライキを身をもって切りひらいたわが動労千葉の路線の正しさと勝利性が今40万国鉄労働者の力強い決起を呼び起こし、引きつがれ、発展しはじめたのである。

仲裁完全実施・国鉄再建監理委設置法案粉碎・国鉄労働運動解体攻撃粉碎

12月統一ストライキをかちとろう!

「秋季年末闘争をめぐる情勢」
11月26日、超反動II中曾根政権が誕生した。そして即日、行革・増税・改憲・軍事大国化への決意を表明し、しかもロッキード灰色高官や閣僚中5名もが治安警察のボスで占められるなど類例を見ない反動・腐敗の体制として、人民に挑戦してきた。

会期25日間の臨時国会では、首班指名に続いて、補正予算の審議に加え、行革の目玉として国鉄再建監理委員会設置法案の成立を狙っている。

総評は、10月21日の臨時大会で、82年秋季年末闘争の戦術を決定し、臨時国会での仲裁々定の冒頭決着、人勸実施の要求と、10万人規模の連日国会包囲行動、12月国会審議の最重要段階での官民全1日ストライキの実施を決定した。

動労千葉は、十月の三里塚一反戦一反核一狭山の政治闘争への総決起、および今次「57・11ダイ改」闘争できり開いた偉大な成果をバネに、闘う巨万の

(裏面に続く)

報 速

当局の「現協制度改悪攻撃を怒りをこめて弾劾する!本日、12月1日をもって国労・動労千葉等、無協約」下の実力闘争に突入。動労「本部」またも、鉄労と手を組み、当局に全面屈服を結。現場「売り渡しの裏切り弾劾」

労働者と連帯して12月統一ストライキ実現にむけ、闘争体制の強化をはかっていく。そして、この偉大な完全実施要求等を軸とした総決起と、以下に掲げる「現協制度改悪粉砕」を始めとする当面する合理化攻撃の重要三事案との闘いをしっかりと結合し、年末〜来春にむけた全面的な総決起態勢に三里塚―国鉄決戦勝利へと連続的に爆発・発展させていくことが重要である。

職場団交権を突力でもぎとろう！ Ⅱ 当面する反合闘争課題Ⅱ

① 現場協議制度改悪粉砕闘争 について

当局は、8月30日、「現場協議委員会に関する協約」改訂を提案し、完全に形がい化させた内容の「新協約」の一方的押しつけをはかり、「11月30日までに結論が得られない場合は、12月1日以降、従来の協定は破棄する」ということを通告している。

われわれ動労千葉は、国鉄労働運動の解体を最大目的としてかけられてきたこのような「現協改悪」職場団交権の暴力的破壊」攻撃など断じて認めることはできない。いささかの妥協の余地もない立場を鮮明にさせて一つ一つの具体的闘いを職場に育て上げ、現場交渉を実現させ、実力で権利を獲得していくため、闘いの原点にたちかえり、あえて「12月1日以降、無協定下」での労働条件実力獲得の闘いを創造していく闘いに入る。そもそも、労働者の権利獲得の闘いの原点はそこにあるという事を忘れない限り、勝利は必ずわれわれの側にある。

国労、全動労も当局提案の「新協約」は拒否との立場で闘いを進めているが、例によって動労「本部」、鉄労、全施労は当局案にそって妥結の方向に向っており、この問題での屈服・裏切りも時間の問題と思われる。

② 乗車証制度改悪反対闘争 について

当局は、通勤乗車証以外の廃止を提案するとともに、「これは交渉事案ではない」から一方的に実施する、との不当な態度にでてきた。雇用条件・労働条件の重要な部分を占める乗車証の廃止攻撃に対し、われわれは全面撤回を要求して、OBも含め当局を追及してきた。今日、要求の一部は勝ちとったものの、当局は12月1日より強行実施する動向にあり、混乱の一切の責任は当局にあることを明確にして、引き続き闘っていく。

③ 検修下廻り合理化阻止を中心とする闘いについて

国労・動労千葉等による「57・11ダイ改」闘争での徹底した追い上げのため、当初当局が同時実施を狙っていた「検修下廻り合理化」攻撃は、現在、先送りとなっている状況にある。12月統一ストの高揚と結合させ、引き続き、現場の闘いと交渉を強めて闘ってゆく。

当面する行動スケジュールについて

- ① 12月8日、10時より、動力車会館において「第五回定期委員会」を開催する。
- ② 12月10日、14時より、千葉運転区講習室において、12月統一ストライキの圧倒的成功をかちとるために、「動労千葉総決起集会」を開催する。同時に、今回、12月1日をもって突入する無協定下における職場団交権の実力獲得の闘いへの万全の態勢をうち固めてゆくこととする。
- ③ 12月13日と29日、中江選挙必勝にむけた「第二次統一行動」を展開する。
11月「第1次統一行動」は組合員の地道な奮闘の積み上げにより、たしかかな手ごたえのある成果を切り開いている。これを引つぎ、もっと拡大していこう。